

認定特定非営利活動法人びわ湖トラスト
E/SASV Games 実行委員会



実施日 2024年8月17日、18日
後援 文部科学省、国土交通省、環境省、滋賀県、滋賀県教育委員会、高島市、長浜市
協賛 COSMOエコ基金、セブン-イレブン記念財団、安藤スポーツ・食文化振興財団
今治造船(株)、潮冷熱(株)、(株)YDKテクノロジーズ、MAXON JAPAN(株)
協力 地元漁業者(本部艇、審判艇、見学艇の提供・運航)

総括

過去26回の開催実績を有した「琵琶湖クルーレスソーラーボート大会」を進化させ、昨年実施した「第1回 E/SASV Games」に引き続き、第2回大会を開催しました。

台風7号の影響もあり、関東からは北陸新幹線経由での来訪となり、また沖合での風が強く、17日は途中で中止の判断となり、競技は18日のみとなりましたが、白熱した競技会となりました。また、今回試行した「位置情報アプリ」によりLIVE配信を行い、モバイルで航行の様態をリアルタイムに確認出来、浜辺での観戦も大いに盛り上がりました。

また、ソーラーエネルギーを活用する重要性を広く浸透させることがイベントの目的の一つですが、本大会には小中高生、大学生、企業から参加いただき、特に次世代を担う若者達にソーラーや自然エネルギーへの理解を深め、エネルギー問題に対し考え、行動する機会を提供することができたと考えます。

認定特定非営利活動法人びわ湖トラストは、これからもこのイベント等を通して、エネルギー問題に深く関り、新エネルギーを活用した持続可能な社会発展に貢献していくつもりです。

開催概要

「第2回 E/SASV Games」として、8月17日、18日に琵琶湖にて 競技会を開催しました。

台風7号の影響で、東海道新幹線が計画停止していたため、関東のチーム(東京大学)の参加が危ぶまれましたが、北陸新幹線を利用して無事大会に参加いただきました。参加チームに関しては、HPや高校、高専等への郵送で募集案内を行いました。予算の関係で第1回大会に実施した助成金の交付ができなかったこともあり、遠方からの新規参加はありませんでしたが、滋賀県の高校と大阪の大学(大阪電気通信大学)の2チームが新たに参加し、今治造船チーム(2チーム)、東京大学チームとびわ湖トラストジュニアドクター育成塾チーム(2チーム)と合わせて7チームでの競技会となりました。

競技日程は8月17日と18日の2日間を計画していましたが、8月17日は、大会はスタート後に、台風7号の影響もあり沖合に出たところで波、風が強く、転覆する艇もあり、大会本部の判断により、途中で中止としました。競技参加者は自然環境の厳しさを肌で感じたものと思われます。唯、どの艇も結果的に試験航行をすることができ、明日の大会に備えることができました。翌18日は朝から雨が降り、競技は1時間遅れでの開始となりましたが、雨が上がって絶好の「E/SASV Games」日和となり、抜きつ抜かれつの白熱した競技会となりました。唯、自然環境は厳しく、完走できない艇もありましたが、設定された地点の通過ポイントの合計で順位は決まりました。

課題としては、資金の調達、多くのチームに参加してもらうための広報の仕方等々ありますが、前回、今回の経験を活かし、本大会を更にブラッシュアップして、より多くの方々に参加いただき、国内外の人々を対象に、ソーラー発電などの再生可能エネルギーの重要性を理解することにより地球環境の保全につい

て考える機会を継続して提供し、そのための技術向上につながる知識や経験を継承し、将来の日本、世界を担う若者を育てていく活動になりうる大会として継続していきたいと考えます。

事業概要

目的 全国および全世界の子ども達や大人が日本最大の湖、琵琶湖を舞台に日本の自然環境に触れ、自然環境を学び、ソーラーエネルギー等の自然エネルギー重要性を学び、考える機会を提供することを目的としています。

内容 競技会 8/17, 18 (但し8/17は台風7号の影響で中止)
競技参加者は実際に無人走行(自律型)のソーラーボートを製作し、決められた走行コースを航行させる。指定された通過ポイント(A地点、B地点、C地点)の通過ポイントとタイムによるポイントの合計で着順を決める。
(「第2回E/SASV Games 大会規定」参照)

大会会場 琵琶湖(マキノから竹生島往復)

競技内容 リアル空間での競技(本選)・添付「E/SASV Games 公式ガイドブック」を参照ください。

競技参加チーム・人数

7チーム・59名

競技方法

実際に琵琶湖を、製作したソーラーボートを走らせ、指定された通過ポイント(A地点、B地点、C地点)の通過ポイントとタイムによるポイントの合計で着順を決定。競技はマキノサニービーチを起点とし竹生島往復(通過地点を設定)

操縦 自律走行(無人)

動力 ソーラーパネルのみ(1.0m²以下)

(「E/SASV Games 公式ガイドブック」参照)

※本選には競技参加者、スタッフ(漁業者含む)、協賛団体様、及び主にジュニアドクター育成塾チームの応援団(ご家族)約100名以上(延200名以上)が参集。

また、琵琶湖(マキノサニービーチ)に来ていた多くの家族づれ、グループに観戦いただきました。

参加 競技会参加チーム(出艇順)

1. FAE(大阪電気通信大学)
2. 今治造船自律航行艇競技部 チーム丸亀
3. 東京大学ソーラーボートプロジェクト
4. 今治造船自律航行艇競技部 チーム今治
5. 元青中ソーラーボート同好会(高校生チーム)
6. トラまるブルー(ジュニアドクター育成塾チーム)
7. びわえもん(ジュニアドクター育成塾チーム)

コース



結果

- 1位 FAE
- 2位 びわえもん
- 3位 元青中ソーラーボート同好会
- 4位 今治造船自律航行艇競技部 チーム今治
- 5位 東京大学ソーラーボートプロジェクト
- 6位 今治造船自律航行艇競技部 チーム丸亀、
トラまるブルー



大会終了後の集合写真

(中央は優勝した「チーム FAE」のソーラーボート)

大会参加チーム



トラまるブルー (ジュニアドクター育成塾)



チーム元青中 (高校生)



チームF A E (大阪電気通信大学)



びわえもん (ジュニアドクター育成塾)



東京大学チーム



今治造船自律航行艇競技部 (今治)



今治造船自律航行艇競技部 (丸亀)

イベント風景



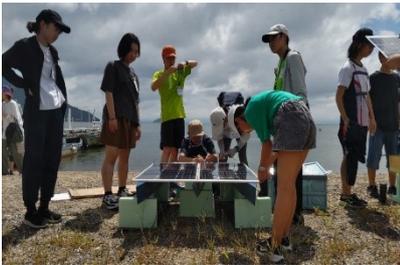
大会本部



開会式風景



県の「びわ湖の日」イベントにもエントリー



ソーラーボートの組立・調整



スタート地点への搬出



スタート風景



自律航行のソーラーボートと審判艇



自律航行ソーラーボート航行

・先に見えるのは竹生島・



表彰式風景 左から「チームFAE」・「びわえもん」・「元青中ソーラーボート同好会」



競技中は岸辺で泳いだり、幻のタニシを箱めがねで探索し、びわ湖の自然に触れる子どもたち



閉会式風景